

梅雨が明け、高い湿度から解放されて、セミの鳴き声が聞こえてくると、いよいよ本格的な夏。

現在会員登録数 3,553 人さま。次号は 8 月 20 日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

貸切の大阪モノレール車内で「おはなし会」を楽しみ、彩都の会場で「パネルシアター」を観ていただくお子様向けのイベントです。5歳から小学3年生までのお子様と保護者、あわせて120人を募集します。今年の定員は例年の半分にしています。開催は9月23日（木・祝）で、参加費はひとり500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月6日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html

● 「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（日）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#38boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第35号の原稿を募集しています。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第34号」を販売しています。

発行：当財団 2021年3月 A5判 106頁 1650円（税込）

● 再スタート10周年 一次の10年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間1万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イクロちゃん」のグッズをプレゼント！

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

子ども向けに紹介する「YouTube 版 本の海大冒険」(絵本編・読物編・YA編・科学編、各回3~5分)は毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ!」(各回約30分)は毎月10日に配信しています。ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします。公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【2】コラム
■ ----- ■

《1》この本読んだ? Yasuko's & Aya's Talk

『緑の髪のパオリノー』 ジャンニ・ロダーリ/著 内田洋子/訳 講談社文庫 講談社 2020年11月 対象年齢:小学校高学年以上

あらすじ: ジャンニ・ロダーリ生誕百周年を祝って出版されたロダーリの短編集。表題作は、頭の上に草や木がはえたパオリノーの一生を描いた作品。「リーノ・ピッコのおはなし」37編、「イソップっぽい童話」12編、「そして、読み応えのある長い物語四編」と荒井良二(装画)、飯田陽子(編集者)、内田洋子(訳者)のあとがきが付いている。

A: 日本で初訳のロダーリ短編集です。この本の作品はロダーリがジャーナリストとして働いているときに書いた作品です。

Y: 「リーノ・ピッコ」ってどんな意味ですか?

A: ロダーリが使っていたペンネームです。逆にすると「ピッコリーノ」となって、「小さくて可愛い」という意味があって、そういう男の子を指すこともあります。

Y: 「リーノ・ピッコ」のおはなしは、特に短く、アイデア集のような感じでもありますが、そこにひらめきとユーモアとちょっとした皮肉が感じられます。

A: ロダーリはこれらの作品を共産党系の新聞「ルニタ」に発表しますが、その後、『チポリノーの冒険』(1951年)を出版します。『チポリノーの冒険』には、似たエピソードがたくさん見つかります。

Y: たとえば、どんな作品ですか?

A: お金がないので118個だけのレンガで作った家に住んで子どもたちと仲良くなるグスターヴォさんのことを描いた「とても小さな家」は、『チポリノーの冒険』ではズッキーニじいさんの家として描かれています。物が無いことを見せるために貼り紙を書いていたグリエルモさんのエピソード(「ドロボウたちのための玄関ブザー」)がありますが、ブルーベリーさんも泥棒対策に同じことをします。まだまだあります。

Y: 好きだった作品を3つ挙げるとすると・・・?

A: ロダーリらしく、頭を使わないと自由をなくすということを皮肉として

伝えている「宿題かたづけマシン」、島たちが旅をする「地理のバカンス」、こんな夜空があったらなと夢想する「空」です。

Y：私は、いろいろな色の雪が降る「雪」、サーカスのクマが自由を求める「クマのダンス」、そして、表題作の「パオリーノの木」でした。

A：パオリーノの木は、「頭山」や、シェル・シルヴァスタインの『おおきな木』（村上春樹/訳 あすなろ書房 2010年9月）を思わせます。

Y：こんな人生が送れたらいいなと思って読みました。

* 『チポリーノの冒険』は岩波少年文庫で読むことができます（関口英子/訳 2010年10月）。

* 今回のゲストはイタリア語の翻訳家のよしとみ あや（A）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第71回「黄いろのトマト」

「中断」の美学

タイトルのあとに「博物館十六等官／キュステ誌」と記されていて、「私の町の博物館の、大きなガラスの戸棚には、剝製ですが、四足の蜂雀がいます。」と書き出されます。小さかった「私」が学校に行く前にガラスの前にこっそり立ったときに、蜂雀の一足が「銀の針の様なほそいきれいな声で、にわかに私に」いうのです。——「お早う。ペムペルという子はほんとうにいい子だったのにかあいそうなことをした。」

「私」も「お早う。蜂雀。ペムペルという人がどうしたっての。」とあいさつすると、蜂雀は、ペムペルとネリの兄妹が楽しく暮らしていたようすを話して聞かせます。ところが、蜂雀は、「けれどほんとうにかあいそうだ。」といったあと、急にだまりこみます。居たたまれなくなった「私」は「ね、蜂雀、談してお呉れ。」「そら、さっきの続きをさ。」とせまりますが、蜂雀はじっとしたままでしたから、「私」は、とうとう泣き出します。「私」は、蜂雀の話の中断に立ちつくし、耐えられなくなったのです。

ひどく泣いている「私」を心配した番人のおじいさんの取りなしで、蜂雀は、ようやく、また語りはじめます。それは、風に吹き飛ばされて聞こえてきた「奇体ないい音」にさそわれて、兄妹が町のサーカス小屋まで行った話でした。ふたりのポケットには黄金(きん)がなくて、中に入れなかったものだから、ペムペルは、ひとりで家に引き返して、畑の光る黄いろのトマトをもってきます。兄妹は、トマトは黄金だから、あんなに光るのだと思っていたのです。しかし、木戸口では「トマト二つで、この大入の中へ汝たちを押し込んでやってたまるか。失せやがれ。畜生。」とののしられ、トマトを投げつけられます。ふたりは、泣きながら帰りました。

町へやってきた兄妹の楽しみは無残に断ち切られ、ここまで話した蜂雀は、「もうはなせない。」「さよなら。」といます。「私」も、悲しみを十分に感じて、ガラスの前から廊下に出てきますが、幼いころに経験した「中断」の切なさが、このテクストの主題のようにも思えてきます。テクスト自体も、冒頭近くに〔以下、原稿一枚？なし〕という中断をふくんでいるのです。

「私のまだまるで小さかった時のことです。」と町の博物館の物語をしめくくった「私」が、いまは博物館で仕事をしているのも、幼いころの切なさを埋めようとしてのことでしょうか。(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 25

「そこで提案なんだけど、敵としてにらみあうのはやめて、友だちになってみるっていうのはどう？」

「冗談はよしてくれよ」クマはあきれていました。「玉ねぎ坊主と友だちになったクマが、この世にいると思うかい？」

「どうしてダメなの？」チポリーノはひきさがりません。「おかしいことなんてちっともないよ。この地球上、だれもが友だちになれるんだよ。クマだって玉ねぎだって、みんな星の下では平等なんだ」

(『チポリーノの冒険』 ジャンニ・ロダーリ/著 ヴラジーミル・スチューエフ/絵 関口英子/訳 岩波少年文庫 岩波書店 2010年10月 p.213-214)

ジャンニ・ロダーリの代表作の一つ『チポリーノの冒険』からの引用です。チポリーノは、玉ねぎの子ども。過ってレモン大公の足を踏んだために牢屋に入れられている父が、チポリーノに、旅に出て世の中を見てまわり、「悪者」について学ぶようにと言います。チポリーノは、ある村にたどりつき、そこでくつ職人のブドウ親方の元で働き、レンガ118枚の家に住むズッキーニじいさんや、音楽の先生であるナシノキ・ナシオ教授、八百屋のだんなのネギモト・ネギゾーなどと友だちになります。

ところが、村の人たちが、プチレモン兵につかまって牢屋に入れられてしまいます。チポリーノは、モグラのおばさんの助けを借りてみんなを助け出し、みんなで森へ逃げます。そこへやってきたのが、引用のクマです。クマは、昔話「おだんごぱん」のように、「カボチャおばさん、おいらはあんたが大好きだ」と言ってカボチャを食べようとしますが、たき火があるので近づけません。そこで、チポリーノが、クマに友だちになる提案をするのです。

この作品には、随所に、このような人間のありようや社会のありようを伝える言葉がちりばめられていると同時に、権力者の恐ろしさや愚かさもしっかり描かれています。チポリーノをはじめ、野菜や果物を擬人化した人物たちがユーモラスで、挿絵も魅力的。1951年の作品ですが、今読んでも皮肉がきいていて楽しく、考えさせられることがたくさんあります。(Y)

《4》行って来ました！

MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店で7月28日まで開催されている「『ヴォドニークの水の館 チェコのむかしばなし』絵本原画展」に行ってきました。4月

に出版された絵本『ヴォドニークの水の館 チェコのむかしばなし』（まきあつこ文 降矢なな絵 BL出版）の原画16点が展示されています。

このお話は、貧しい家のむすめが、あまりのひもじさに川に身を投げようとしているところを、水辺の主であるヴォドニークがつかまえて自分の水の館に連れていくところから始まります。ヴォドニークはむすめに食事をふるまい、館の掃除をするように言い、金の粒をこづかいとして与えます。むすめは、広間のストーブに並べられた壺の中は覗いてはいけないと言われていたのに、ふたを開けてしまい、壺の中にはヴォドニークがおぼれさせた人たちの魂が閉じ込められていることを知ります。そして、むすめは、家に帰りたと思うようになり、ある日、壺の魂をすべて解放し、水の館を逃げ出します。

原画を見てあらためて気づいたことにスカーフのことがありました。むすめは最初の場面では、頭に赤いスカーフを被っていますが、身を投げようとしてヴォドニークに連れていかれる場面では、ほどけて水の中に漂っています。水の館で掃除をしているむすめは白いスカーフを被り、逃げる時は何も被らず出かけます。むすめが水の中で出口を見つけた場面には、水草に引っかかった赤いスカーフが描かれています。けれど、むすめは、赤いスカーフを拾わないまま、元の世界へ戻ります。家に戻った最後の場面では、黄色と赤の新しいスカーフを被っています。むすめが水の中に赤いスカーフを残したのは、過去の自分を振り切って地上に出るという意味があるのかなと思いました。

ほかにも、水の冷たい感触が伝わる青、ヴォドニークの館の居心地のよさ、魂の壺に描かれた一つ一つの模様、だんだんと生きる希望を持つようになるむすめの表情の変化などが原画によってより印象深く感じられました。

表紙と逃げる途中の絵はなかったのでまたいつか見たいと思いました。ページをめくる楽しさと原画の繊細な筆遣いの両方を楽しむことで、物語世界により近づけた気持ちがしました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 児童文学講演会ーすべての子どもに本のよろこびをー

日時：7月31日(土) 午後1時半～4時半

会場：ドーンセンター 4F大会議室(大阪市中央区大手前)

講師：村中李衣(児童文学作家、ノートルダム清心女子大学教授)

内容：第1部 講演会「困難な時代だからこそ、種を蒔く

ー女子受刑者とわが子をつなぐ絵本の読みあいー

第2部 育てる会総会

第3部 「育てる会」設立40周年記念のCD

「大阪国際児童文学館 in 千里万博記念公園」上映会

参加費：有料 申し込み：必要

主催：大阪国際児童文学館を育てる会

後援：大阪府子ども文庫連絡会／大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
令和2年度に開催した、IICLO 移転 10 周年記念フォーラム「子どもの本の現在と未来」と、国際講演会「チェコの子どもの本 いま・むかし」の報告集（どちらも 880 円で販売中）を各 1 名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.131 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、(5)希望の報告集名、よろしければ (6)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は 8 月 10 日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — |

子どもたちは夏休みに入りました。長く会っていない遠くの孫たちはどのように過ごしているのでしょうか。時々送ってくれるスマホ映像やビデオ通話での〈オンライン〉対面も楽しみですが、早く実際に会えるような状況になることを心待ちにしております。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
